

伸び代を決めるもの



岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
学長 林 陽子 氏

教育随想



令和2年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
学長 林 陽子 氏
- この人に聞く…………… 2
盆栽家 鈴木 卓也 氏
- 羅針盤…………… 2
算数・数学科指導員 加藤 良彦
- ふれあい…………… 3
甲山中学校 教諭 高橋 秀徳
- 特集…………… 4
『子供の社会的自立を目指して』
～子供の多様性に対応した校内フリースクール～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
体育館竣工（昭和54年）
- この本を…………… 8

大学には四つのPが求められています。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アセスメント・ポリシーです。

ディプロマ・ポリシーとは、卒業認定や学位授与の理念や基準です。学修の目標とも言えます。この目標達成のため、カリキュラム編成の基本的な方針がカリキュラム・ポリシーです。

アドミッション・ポリシーとは、入学生の受け入れの方針や基準のことです。近年、アセスメント・ポリシーも必要になりました。様々な局面での評価の方針や基準のことで、私たちは、この四つのポリシーに則った教育で、建学の精神が示す理念や人物像を実現しようとしています。

さて、学生たちは、カリキュラム・

ポリシーやディプロマ・ポリシーに沿って展開される授業に出席し、学びを深め、拡げていくのですが、当然のことながら、その姿や学びの成果は個性的です。目を見張るような飛躍を見せる学生も少なくありません。飛躍のタイミングや有り様は様々ですが、時折いわゆる伸び代が大きい学生がいます。

このような学生の特徴として、当然ながら、強い目的意識に繋がる旺盛な意欲や興味、集中力や粘り強さ、深い思考力が挙げられます。時間管理が上手な学生もいます。また、協働性や受容性なども共通の特徴であることに気付きます。

ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに則って伝えた教育内容や、アクティブ・ラーニングの体験そのものは、学生による差異はそれほど大きくないはず。大学

生の伸び代の決め手は、ジェームズ・J・ヘックマンが『幼児教育の経済学』（古草秀子訳）で、就学前教育においてとりわけ重要であると提唱している、「非認知能力」と相通じる能力であるような気がしてなりません。

（はやし ようこ）





客観的に伝統を見つめ挑戦すること

盆栽家 鈴木 卓也氏

盆栽を始める前は、建築業界や飲食業界に勤め、忙しい日々を送っていた。結婚、子供の誕生を機に、自身と家族の在り方を見つめ直す。養子に入った妻の実家が偶然、盆栽老舗の「大樹園」の鈴木家であった。行き来する職人たちと会話をする中で、次第に盆栽の世界に惹かれ、家業を継ぐ決意をする。全く無知の状態から修行を積み重ね、「作風盆栽展」新鋭作家部門において、金賞（黒松）・銀賞（五葉松）を連続で受賞する。

盆栽の魅力は何ですか

楽しみ方はいろいろあるのですが、盆栽に四季の彩を見たり、作りこんだりする楽しさがあります。私は、特に後者の方に魅力を感じています。枝を切り、幹を曲げる作業等を通じて、数年掛けて自分のイメ

ジしたものに寄せていく。それが出来上がったときの達成感は何とも言えません。

大変なことは何ですか

現在、日本の盆栽業界は衰退の方向にあるといえます。世の中に盆栽を知らない人が増え、盆栽を引き継ぐ職人や植家さんも少なくなっています。また、海外ではブームの起きている地域もあり、銘木と呼ばれる作品が、どんどん流出している現状があります。

日本の伝統的な盆栽技術はたいへん優れており、私の祖父が確立した技法も、日本中で継承されています。盆栽業界は、高い技術とブランド力に支えられてきました。職人にとっては、伝統を守り、技術を高めて、作品をよりよく育てることが第一です。しかし、それだけではお客様はついてきてくれない時代になりました。今の時代に合った業界に、少しずつ変えていくことが必要だと感じます。

これからどんなことに挑戦したいですか

まずは、盆栽について多くの方に知ってもらおうことです。そのために、ステージイベントや初心者向けワークショップ、和装業界との共同企画など、新規事業を立ち上げました。最初から盆栽に関わっている職人と比べ、私は、技術等ではかなわない部分があります。でも、私だからこそできることがあると思います。伝

統を守ることに新しいことを始めることで葛藤もありますが、今は盆栽人口を増やすことを優先させたいと思います。最近では、コロナの影響で展示会も開催できないので、盆栽のレンタルや、海外のお客様に向けたオンラインでの盆栽技術の提供など、広報活動を積極的に進めていこうと考えています。

最後に岡崎の子供たちへメッセージをお願いします

やりたいことがあったら、挑戦してほしいと思います。やる前から諦めることは、決してしてほしくないですね。私は、最初から盆栽職人になりたいと思っていただけではありません。元々イメージしたものをやるのが好きで、建築や飲食の仕事に携わりました。偶然出会った盆栽の世界にも似たようなところがああり、挑戦しようと思えました。失敗が怖くて、踏み出せない人は多くいます。しかし、例え失敗したと思っても、それを基に学び、結果的に次につながれば、それは成功したということだと思います。私自身も、挑戦し続けていきたいと思います。

氏名 すぎき たくや
 生年月日 昭和六十年 八月三十日
 住所 岡崎市大平町




数学を学ぶ意義を感得できる

数学科の授業

算数・数学科指導員

加藤 良彦

「数」はある事柄の状態を示しており、「式」はその関係性を表している。例えば、「 $3 + 2 = 5$ 」には、「リングが3個と2個あります。合わせて何個ですか」という意味が存在するはずである。しかしながら、文章問題になると手が付かない子供がいる。生活面の問題を解決するという本来の意味を失い、形だけが模倣されるという状況に、数学を学ぶことの意義を伝えていく必要性を強く感じる。

A 中学校のB教諭は、一年「文字の式」において、式の表す意味を考えず、同類項をただ計算すればよいとする子供の姿を目にした。そこで、単元の終末に、正三角形と正方形を組み合わせた形を家に見立て、それをいくつか並べた場合に必要なマッチ棒の本数を求める課題を提示した。家の数を二つ三つと





誠実な努力の先に

甲山中学校

教諭 高橋 秀徳

ソフトボール部に所属するAは、一年生のときから打撃に光るものがあり、先輩たちに交じって試合に出場してきた。しかし、スムーズな腕の振りができず、強い球を投げられないことで、送球に悩みを抱えていた。私は、Aを打撃のみのポジションにつけた。Aは試合で活躍が続けたが、プレーの後、どこか自信なさげに私の表情を伺うAの様子が気になっていった。

全国大会の大舞台。Aはサインミスをしてしまい、私は選手の交代を告げた。試合後、Aは「先輩との最後の試合でミスをしてしまい、後悔してもきれない」と涙を流した。私は、Aの不安げな様子に気付кинаから、十分相談に乗らなかったことを申し訳なく思った。そして、この先、Aが悔しさをばねに、努力を自信に変え、堂々とプレーできるよ

うなってほしいと願った。

いよいよAたちの代になった。Aは、守備でもチームに貢献したいと意識が高まり、「一塁手をやりたい」と口にするようになった。私は、いまだ送球に不安を残すAに、自分の力でレギュラーをつかみとってほしいと考え、下級生とポジションを競わせることにした。

Aは、熱心に送球練習に取り組んだが、一度癖のついた送球フォームは、一朝一夕で変わるものではない。私自身も、学生時代に同様の悩みを抱えていた。そのためAの気持ちがよく分かる。指摘されると意識し過ぎてしまい、余計に悪化してしまうのだ。私は、Aが不安なく改善に取り組めるように、「気にしすぎない方がいいよ」と声をかけ続けた。それでも不安げな様子A。そこで、ボールの回転を意識できるようにテープを巻いた自作の練習ボールでの送球練習を提案した。Aは、気になったのか、「これいいですね」とボールを受け取り、意欲的に練習に取り組んだ。時には、そのボールを使つて、私も一緒にキャッチボールを行った。彼女にはこの課題を絶対に克服してほしいと思つた。

グラウンドには、毎日、黙々と練習ボールを投げるAの姿があつた。思うように投げられない。それでもあきらめず投げ続ける。そんなAの

誠実な努力が実に実を結ぶ。送球難を克服し、一塁手を任せられるまでになった。そこには、一步一步自信を深めるAがいた

チーム状態もよくなり、手ごたえを感じられるようになってきた春、予想し得なかつた事態が訪れた。コロナによる休校、相次ぐ大会の中止である。沈む部員の前で、「チームの目標は達成できなくなつたけれど、個人の目標はまだ達成できる」と、Aは前向きに話した。

市長杯で優勝することは叶わなかつたが、試合後、Aは「先生が寄り添ってくれたことに感謝しています」と話してくれた。Aの母親が、「昨日の夜、あのととき渡された練習ボールを家でしみじみと見ていたんですよ」と教えてくれた。苦手克服に励んだ日々。誠実に努力し続けることの大切さを、Aに教えてもらった。



増やしなから、本数を確認したこと

を基に、子供たちは本数の変化に規則を見いだし、立式を進めていった。子供が立てた六つの式の共通点を探るようにB教諭が声をかけると、どの式も計算結果が $5n+1$ という式にまとめられることから、「みんな同じだ」「えっ、どうして」と感嘆の声が上がった。さまざまな考えから導き出された式が、家一つ増えれば、マツチ棒が五本増えるという、より簡潔にその意味を表すことができることに子供が改めて気付けたからである。「文字式を扱うことの意味を感じてほしい」というB教諭の願いが、子供に通じた瞬間であつた。

子供は正答を求めることを第一と考え、学んだ方法をただ反復することに目が行ってしまう。そこで、教師は、式や操作の意味理解までを学習のねらいとするべきである。板書に式を羅列するだけでなく、その式が何を意味するのかを問い返したい。そして、その子供の言葉を書き加えることで、考えが共有され、意味理解につながるのである。

学習指導要領の目標に、「簡潔・明瞭・的確」といった数学のよさを示す言葉が明記された。数学を通して生活の中にある問題を解決する経験を重ね、数学を学ぶ意義を感得できる子供を育成していきたい。

『子供の社会的自立を目指して』 ～子供の多様性に対応した校内フリースクール～



教育相談センター所長 安藤真樹先生に聞く



Q 校内フリースクールを設置した目的は何ですか。

「すべての子供に光をあてる」教育の推進がいちばんの目的です。何らかの理由で学校に来られない子供がいます。誰一人取り残すことなく個別最適化された学びの場を保障し、多様な教育機会を確保したいと考え、校内フリースクールを設置しました。

Q モデル校3校の現状の取り組みについてお聞かせください。

モデル校3校の校内フリースクールに担任と支援員を配置したことで、子供の日々の様子や変化を捉えることができ、子供に寄り添った支援ができるようになりました。また、個別の支援計画等を活用することによって、見通しをもった支援や活動ができています。教室環境やICT機器の活用については、タブレット型端末を活用した遠隔授業を受けたことで、学級復帰がスムーズになったなどの実例がありました。さらに、学校体制として、校内フリースクールを中心とした長期欠席生徒への対応が強化できています。

Q 今後の校内フリースクールの展望について教えてください。

今後は、モデル校3校の成果等を踏まえながら、各中学校に展開できる支援の内容を検証していきます。フリースクールに通う生徒の一人が、自分のよさに気付き始め、中学卒業後の進路を真剣に考え始めたようです。子供に合った環境を整えたり、支援を講じたりすることで、自立に向かう生徒がいるはずです。「すべての子供に光をあてる」ために、校内フリースクールの設置拡大を目指していきます。

全国の小中学校における不登校児童生徒数は、平成二十五年以降連続で増加傾向にあり、平成二十九年調査では一四四、〇〇〇人を超えた。文部科学省は、平成二十八年に教育機会確保法を施行し、不登校になってからの事後的な取り組みだけでなく、すべての児童生徒にとって学校が安心感や充実感を得られる場となるような「魅力ある学校づくり」を目指す考えを示した。今年度、岡崎市は、愛知県内では初めて、中学校三校（甲山中、福岡中、矢作中）に校内フリースクールを開設した。この校内フリースクールは、長期欠席生徒に加え、集団生活になじめない生徒も通うことができ、最終目標は、学校復帰・教室復帰ではなく、「社会的自立」と定めている。生徒一人一人の特性に合わせた手厚い支援を行うことで、新しい不登校支援の取り組みとしても期待される。

環境支援

【通常の教室とは異なる落ち着いた空間を演出】

【生き物を大切にすることを育むためにメダカを飼育】

【時事に関心をもたせるための新聞閲覧コーナー】

【衝立で個々の空間を確保し活動の記録や連絡を掲示】

入級までの流れ (福岡中)

生徒・保護者からの相談
↓
F組担任・支援員との面談
↓
入級申請書提出
↓
お試し期間
↓
正式入級

学習・生活支援

【タブレットを使って遠隔による授業参加】

【支援員や補助者と一緒に個別学習】

【個に応じた体験・実習活動】

【休み時間には生徒同士で談笑】

[生徒の感想]

- ・教室で分からないままになっていたことが、分かるように教えてもらえました。(中3女子生徒)
- ・学級に戻る準備になっていると思います。(中3男子生徒)
- ・楽しいです。雰囲気明るいのがいいです。教室には私には息苦しく感じます。(中2女子生徒)
- ・勉強面では、特に数学を頑張っています。友達といろいろな話ができたり、運動、生き物の世話、カードゲーム遊びができたりして楽しく過ごしています。(中2男子生徒)

[保護者の感想]

- ・少しずつ自分に自信が出てきた気がします。安心できる環境を与えていただき、感謝します。(中1男子の保護者)
- ・学校に行かずに引きこもっていたときよりも、明るく元気になりました。(中1男子の保護者)

[担当教員の感想]

- ・生徒(特に悩みや不安を抱えている生徒)にきめ細かな指導が重要であることを再認識できました。
- ・教員補助者や支援員など、多くの大人が関わることで、個々に関わる時間が増えました。
- ・学校に来ることも、家から出ることもできずにいる子たちが、安心して過ごせる場所の一つになるようにしていきたいと思います。

社会的な自立

通常の学級

交流学級

最終目標

校内不登校対策委員会

教育委員会
学校指導課

F組

・担任(本務者・ミドルリーダー)を置く。
・フリースクール支援員や副担任等を置く。

もの

・専用 iPad 等 ICT 機器を充実させる。(Wi-Fi 環境)
・普通教室とは違う机、椅子等を設置し、リラックスできる環境をつくる

こと

・独自の教育課程を編成。
・教育支援シートの作成。
・交流学級・体験活動等を弾力的に設定。

小学校

連携申請

民間施設

ハートピア

【校内フリースクール (F組) 構想図】

令和二年度の小学校水泳大会・小学校体育大会が開催された。
 小学校水泳大会は、八月二十九日(土)に、また、小学校体育大会は、十月十日(土)、十一日(日)、十八日(日)に各小学校を会場として行われた。
 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、小学校水泳大会・小学校体育大会ともに分散会場での実施となった。各会場では、熱中症対策、感染症対策を十分施し、安全な大会運営に努めた。
 子供たちは、これまでの練習の成果を発揮し、白熱した試合やレースが展開された。

●令和二年度小学校水泳大会
 小学校球技大会



令和2年度小学校水泳大会 大会結果

【北ブロック】会場：市内小学校プール

	優勝	第2位	第3位
男子	矢作北	広幡	大樹寺
女子	井田	広幡	細川

【南ブロック】会場：市内小学校プール

	優勝	第2位	第3位
男子	竜美丘	矢作南	羽根
女子	三島	竜美丘	小豆坂

個人成績 (1位のみ)

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	杉山 昊徽	六名	33"1	片山 灯夏	大門	33"4
6年 50m自	栗田連太郎	広幡	28"1	加藤 美月	梅園	30"0
6年100m自	谷澤 幸祐	広幡	1'09"6	秋田 琉莉	細川	1'14"8
6年100m平	岡田 爽良	矢作北	1'19"1	岩崎清緒良	井田	1'29"2
6年 50m背	古川 蓮	岩津	35"3	成瀬 叶絆	細川	41"6
6年 25mバタ	柳楽浩太郎	矢作西	15"5	安部 苺花	井田	16"7
6年 50m平	赤塚 悠人	岩津	40"6	岸原くるみ	広幡	38"5
200mリレー	加藤・鈴木晴 鈴木咲・小山	梅園	2'16"6	岩崎・高橋 山本・安部	井田	2'21"1

個人成績 (1位のみ)

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	杉本 直樹	羽根	31"7	高野 紫帆	三島	34"7
6年 50m自	岩田 陽希	矢作南	35"8	尾川恵比菜	小豆坂	34"6
6年100m自	佐藤 圭悟	矢作南	1'11"3	千崎 美来	三島	1'25"8
6年100m平	佐藤将太郎	福岡	1'27"6	竹下陽央里	竜美丘	1'43"5
6年 50m背	金澤 心甫	美合	38"4	杉田 遥香	三島	44"4
6年 25mバタ	服部 羽恭	六ツ美北	15"3	高木 碧琉	竜美丘	17"8
6年 50m平	峯村 奏多	本宿	49"8	柴田 歩波	岡崎	41"4
200mリレー	大平・宇賀神 星野・岩井	竜美丘	2'20"2	花戸・前田 坂本・尾川	小豆坂	2'30"8



小学校水泳大会 (本宿小会場)

令和2年度岡崎市小学校体育大会 大会結果

競技		順位				競技		順位					
ソフトボール	男子	北	優勝	岩津	第2位	広幡	バスケットボール	男子	北	優勝	大門	第2位	愛宕
		南	優勝	六名	第2位	岡崎			南	優勝	六名	第2位	本宿
		東	優勝	上地	第2位	緑丘			北	優勝	井田	第2位	北野
バレーボール	女子	優	優勝	矢作東	第2位	広幡	サッカー	男女	北	優勝	岩津	第2位	細川
		男	優勝	矢作南	第2位	竜美丘			南	優勝	岡崎	第2位	竜美丘
		北	優勝	細川	第2位	矢作北			東	優勝	竜美丘	第2位	根石
		南	優勝	六名	第2位	岡崎							
		東	優勝	山中	第2位	本宿							

表彰

◆第27回愛知県中学校力又

大会新人戦

○男女総合

優勝 新香山中

○男子総合

優勝 新香山中

○女子総合

優勝 新香山中

○カヤック一人乗り男子

二位 新香山中 河野 文晃
三位 新香山中 河野 賢晃

○カヤック一人乗り女子

二位 新香山中 成瀬あかり
三位 新香山中 栗田 萌衣

○カナディアン一人乗り男子

優勝 新香山中 若宮 駿士
二位 新香山中 近藤 翔也

◆第26回日本管楽合奏コンテ

スト予選審査会

○中学校A部門

最優秀賞(全国大会に出場) 六ツ美中

○中学校B部門

最優秀賞(全国大会に出場) 岩津中
竜海中

○第二部(小学校三、四年生)

金賞(知事賞) 三島小 田中 優衣
三島小 丹下ここな
三島小 山口 礼遥

○第一部(小学校一、二年生)

金賞(知事賞) 三島小 判治 里紗
三島小 五十住斗哉
三島小 服部 なこ

○第三部(小学校五、六年生)

金賞(知事賞) 三島小 織田浩太郎
三島小 判治 直哉
三島小 張 学滙

◆CBCこども音楽コンク

ル地区予選(録音審査)

○小学校声楽部門(合唱)

優秀賞 六名小 三島小 山中小

○小学校声楽部門(重唱)

優秀賞 梅園小A

○中学校声楽部門(合唱)

優秀賞 六ツ美北中

○管楽合奏部門

優秀賞 新香山中 竜海中

◆第64回愛知県統計グラ

フ

○第一部(小学校一、二年生)

金賞(知事賞) 三島小 三島小 三島小

○第四部(中学生)

銅賞(統計協会会長賞) 三島小 大國 美琴

○第三部(小学校五、六年生)

金賞(知事賞) 三島小 三島小 三島小

○書道の部

金賞 美合小 鈴木 綾乃

○令和2年度学校関係緑化

コンクール 新香山中 笠松 瑛汰

○学校環境緑化の部

特選(公益社団法人愛知県 緑化推進委員会会長賞) 形埜小

○令和2年度学校関係緑化

コンクール 新香山中 笠松 瑛汰

○書道の部

金賞 美合小 鈴木 綾乃

井田小 永田 愛実
銀賞(統計協会会長賞) 三島小 太田 幸希
三島小 高橋紀一朗
三島小 野田紗恵理
竜美丘小 貝吹 梨子

井田小 林 朔弥

銅賞(統計協会会長賞) 三島小 鎌田 結愛
三島小 渡邊 蓮奈
竜美丘小 下里 桜子
竜美丘小 皆川 実咲

三島小 織田浩太郎

三島小 判治 直哉

三島小 張 学滙

山本 結月
銅賞(統計協会会長賞) 竜海中 柿澤 芳律
竜海中 林 美晃
東海中 影山 舞香

藤井 愛珠

パソコン統計グラフの部 (小学生以上)

金賞(知事賞) 竜美丘小 古田 六花

新香山中 築山 拓虎

銀賞(統計協会会長賞) 甲山中 服部 翔空

銅賞(統計協会会長賞) 新香山中 笠松 瑛汰

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

岩
津
小
三
浦
祐
揮

体育館竣工 (昭和54年)

写真提供：緑丘小学校

昭和五十年年度の開校から三年後、昭和五十四年一月に念願の体育館が完工した。写真は、体育館完工記念「劇と歌の会」の学年音楽の一場面である。

開校当初、校舎が完成しておらず、三・四年生は、美合小学校に間借りをしていた。「学校づくりには欠かせないのは、子供たちを一つにつなぐ和であり、心である」と、岸田達夫初代校長は記している。子供たちの歌声が完工した体育館に響き、一人一人の豊かな心が育まれ、緑丘の今に息づく。

市内六十七校の体育館には、それぞれの歴史がある。今日も体育館には子供たちの笑顔があふれ、また一つ思い出が刻まれる。



図書室から戻ってきた児童が、満面の笑みで一冊の本を差し出した。その本はとても人気があり、何度も通って、やっと借りることができたという。席に戻るのも待ちきれず、夢中でページをめくり始める姿が微笑ましい。読書の秋。本の世界を存分に楽しみたい。

どホ

霜月



▲感染症予防の中での歌唱練習

盆栽の世界の奥深さに触れたことで、その世界をもっとのぞいてみたいと思うようになった。

教師として、自分の勝負どころがどこかを振り返る。子供たちの幸せのために、これからも挑戦することを忘れず、日々精進したいものである。

月を眺める。海に行き、波の音を聴く。心を落ち着かせる方法は様々である。

校内フリースクールは、子供たちにとって、心を落ち着かせる場として存在している。子供たちが自己肯定感をもち、社会的な自立に向けて、前向きに過ごしていけるように。



*「過干渉」をやめたら子どもは伸びる
尾木直樹 西郷孝彦 吉原毅
小学館 ¥820

心に残った一文
過干渉になることで、子どもたちから「考える力」を奪っている。

廊下で勉強する生徒やハンモックに揺られる生徒。桜丘中学校では、学習の内容も場所も生徒自身が決める。「生きづらい子たちを基準にした」という西郷孝彦前校長の言葉からは、小さなサインを出し始めている子供の顔が頭に浮かんだ。

これまでを振り返ると、子供自身に考えさせることや、その考えを尊重して任せることができなかつたと反省する。

まずは子供を信じること。そして、子供が自分自身の力で考え、行動することができる場を作っていきたい。

*本屋を守れ 藤原 正彦
PHP研究所 ¥900
*ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
フレディみかこ
新潮社 ¥1,350
*ジャニーズは努力が9割 霜田 明寛
新潮社 ¥800
愛宕小 柴田 知子